





特集



# バナナの民衆交易が山村の風景を変えた

from フィリピン

自慢のバランゴンバナナを手に記念撮影

**フ**ィリピン・ネグロス島最南端にある東ネグロス州シアトン町。現在、ネグロス島には10のバランゴンバナナ生産者組合がありますが、そのうち最も活発な活動を展開しているのが同町にあるマンティケル村のグループです。マンティケル村は、1980年代後半から90年代初頭にかけて政府軍とゲリラの戦闘が激しかったために多くの村民が村外への避難を強いられていましたが、2000年代に入って状況が落ち着くと、人びとは村に戻ってきました。



フィリピン共和国

ネグロス島  
東ネグロス州  
シアトン町  
ココ!

## 住民の暮らしの支え、共同購買所

マンティケル村では2013年にバランゴンバナナの出荷を開始し、14年に生産者組合を設立。17年12月には、個々の組合員からの出資に加えて、オルタートレード・フィリピン社(ATPI)からバナナ1箱(13.5kg)につき5ペソ提供される奨励金を積み立てて共同購買所を設立しました。取り扱い、およそ100アイテム。調味料から缶詰、ソフトドリンクにビール、学用品や石鹸など、品揃えは多岐にわたります。ただ、子どもたちの健康を害するスナック菓子は販売しないと決め

ています。また、家の修繕や建設に使う釘やベニヤ板、豚の餌など、リクエストに応じた商品の仕入れもします。これらの物資は、バランゴンバナナの出荷日にATPIの空の集荷トラックに載せて町から運ばれる仕組みです。

この村は町から離れた山奥にあるため、日用品を町に買いに出るにも舗装されていないガタゴト道を片道3時間ほど乗合バイクで下っていかねばなりません。共同購買所は組合員以外の住民も利用することができるので、村にはなくてはならない存在となりました。ただし、上限500ペソ(1ペソ約2.1円)までのツケが許されるのは組合員だけの特典です。



設立して1年半の共同購買所・買い物に来た少年



村への基本的な運送手段はバイク

## いずれは箱詰めも自分たちで

町から離れた場所では農産物を栽培しても、それを売るのも一苦労です。マンティケル村ではサトウキビや根菜のキャッサバ、バランゴン以外の種類のバナナなども栽培していますが、やはりATPIが買い取りに来てくれるバランゴンはとても助かっている、と組合長。

また、村長もバナナ交易が地域に与える効果を高く評価しています。18年末時点で、村の105世帯のうち、96世帯がバランゴン生産者組合のメンバーです。かつては経済的な悩みを抱える村民が多かったようですが、山

奥まで入ってきて適切な価格で買い取ってくれるため、そのような生活相談が減ったとのこと。

マンティケルの生産者組合では、生産者一人ひとりからの買い取り・検品作業も生産者組合で担い始めました。また、収穫したバナナの水洗いや箱詰めはトラックで5~6時間運んだ先のドマグッティ市にあるパッキングセンターで行われていますが、数年後には地域でのパッキングを実施することを計画しています。

## すべては生産者の組織化から

バランゴンバナナの集荷・輸出、マスコパド黒砂糖の製造および輸出事業を担っているのがATPI、ネグロス島のサトウキビ産地とバナナ産地の一部で社会開発に取り組んでいるのが「食料主権のためのオルタートレード・フィリピン財団(ATPF)」です。ATPFの活動は、海外のフェアトレード団体や生協などからのプロジェクト支援費の他、輸出用のマスコパド糖1kgにつき3ペソ(1ペソ約2.1円)、バランゴンバナナ1箱あたり15ペソのATPIからの補助金で支えられており、ATPIとATPFは、まさしく流通と社会開発を進める車の両輪です。

サトウキビ生産者は、農地改革によって土地を取得する過程で強固な組織ができあがっていることが多いですが、バランゴンバナナ生産者は個人農家を中心です。そのような個人農家を地域ごとに生産者組合に組織化し、生活改善につながる様々な事業や活動を支援することはATPFの重要な役割の一つですが、マンティケルは、生産者組合が力をつけてきた先進的なバナナ産地の一つと言えます。

赤松結希(あかまつ・ゆき/ATJ)



バナナに関する詳細はオルター・トレード・ジャパンのサイトへ → <http://altertrade.jp/balangon>

